

「マット運動」

ワクワクする授業を作ろう
～楽しいと感じる場면을授業
にちりばめて～

本単元で育成する資質・能力

主体性・自己有用感・説明力

1 単元のデザイン

【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領解説体育編【B 器械運動】に示されているように、器械運動について次の事項を身に付けることができるように設定されている。本単元ではとくに下線部を重点的に指導する。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をすること。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

【児童観】

本学級児童に6月実施したアンケートでは、「体育の授業は好きですか」「運動や体を動かすことは好きですか」という2つの問いに対して肯定的回答が100%であった。また、ロング休憩時間には、ほとんどの児童は常に外に出て遊んでいる。体育の授業ではどのような運動でも進んで取り組んでおり、本学級の児童は、運動に対する興味・関心が高いと考えられる。

更に、複式学級という学級構成上、普段の授業から児童自身が課題を見つけ学習計画を立てて、学習を進めていく体験をしている。そのため、必然と教え合ったり、確かめ合ったりしながら学習をしている。

【指導観】

① 提示された選択肢から、児童が自己決定する場の設定

・「回転系や巧技系の基本的な技をする」「技ができるようになるための活動を工夫する」ことを指導するために、本単元では、単元の最後に「できる技を組み合わせる長いマットを渡りきる」ことを目標として運動遊びの中から自分に合った技に挑戦することを目指す。組み合わせも自分で考えさせることで、単元末の目標を達成するための技の組み合わせを自己決定できるようにする。また、練習のコースもいくつかのコースから自分に合ったものを選んで練習できるようにすることで、楽しく意欲的に運動に取り組むことができるようにする。

「特に配慮が必要な児童への手立て」

●「運動の楽しさや喜びに触れ」「運動に進んで取り組む」ことができるように、授業の最初に器械運動と関係のある準備運動をゲーム形式で行い、回転系の動きに慣れ親しむことができるようにする。

② 対話的な学びの場の設定

・「考えを友達に伝える」「友だちの考えを認める」ことを指導するため、chromebook を使ってペアで動画を撮影する時間を取り入れることで、動画を通して他者と技のポイントについて対話できるようにする。また、その際に自分の思いや工夫を共有することで、運動に挑戦しようとする意欲が高まるようにする。

「特に配慮が必要な児童への手立て」

●みんなの前で連続技を発表することが難しい児童がいることが想定されるため、単元末の課題は動画を撮影し、それをロイノートへ投稿するようにさせる。

2 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・マット運動の行い方を知るとともに、回転系や巧技系の基本的な技をすることができるようにする。	・自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、発展的な技を行うためのコツについて考えたことを友達に伝えることができるようにする。	・マット運動に進んで取り組み、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マット運動の行い方について言ったり書いたりしている。 ②回転系や倒立系の基本的な技をすることができる。	①自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動をしている。 ②発展的な技を行うためのコツについて考えたことを友達に伝えている。	①マット運動に進んで取り組もうとしている。 ②友だちの考えを認めようとしている。 ③場や器具・器械の安全に気を配っている。

4 単元の学習計画

次	学習内容	評価			個別最適な学びを実現するための手立て	
		知・技	思判断表	主体的		
1	・安全なマット運動の仕方を考え、 <u>基本的な技(※)</u> を実践し、単元の学習の見通しをもつ。 ※前転 後転 側方倒立 回転 頭倒立	①		①	◎マット運動の行い方について言ったり書いたりしている。(振り返り) ◎マット運動に進んで取り組もうとしている。(振り返り)	◎選択肢を示し、自己決定させる手立て ▲特に配慮の必要な児童生徒への手立て ◎練習時間にはコースをいくつか用意し、自分の取り組みたい技に取り組むことができるようにする。 ▲マットを使った準備運動をしてから主活動に入ることで、マット運動に楽しく取り組むことができるようにする。
2	・ <u>発展的な倒立技(※)</u> を知り、自分に合った技に挑戦する。 ※ロンダート 首はね起きブリッジおきあがりかえるの足うち		①		◎自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動をしている。(行動観察 振り返り)	◎発展的な技に取り組む際には、マットを重ねた場のような易しい場を設定し、自分に合った場で取り組めるようにする。 ▲マットを使った準備運動をしてから主活動に入ることで、マット運動に楽しく取り組むことができるようにする。
3	・ <u>発展的な回転技(※)</u> を知り、自分に合った技に挑戦する。 ※開脚前転 開脚後転 飛び込み前転 伸膝後転		②	③	◎発展的な技を行うためのコツについて考えたことを友達に伝えている。(行動観察 振り)	◎発展的な技に取り組む際に、マットに傾斜を作るなど易しい場を設定し、自分に合う場で取り組めるようにする。 ▲マットを使った準備運動をしてから主活動に入ることで、マット運動に楽し

				返り) 場や器具・器械の安全に気を配っている。(行動観察)	く取り組むことができるようにする。
4	学習した技を組み合わせて連続技に取り組む。	②		回転系や倒立系の基本的な技をすることができる。(スライド 振り返り)	◎自身が取り組む連続技は自分に合った技の中から取り組む技とその順番を決めるようにする。 ▲連続技の練習は動画を撮影しながら行うようにし、工夫が伝わっているか確認しながら練習させることで、対話しながら練習できるようにする。
5	それぞれの取り組んだ連続技を交流し、学習の振り返りをする。		②	友だちの考えを認めようとしている。(振り返り)	▲連続技の交流は動画で行うことで、交流しやすい環境となるようにする。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・発展的な回転技を知り、自分に合った技に挑戦することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・発展的な回転技を知り、自分に合った技に挑戦することができる。

(3) 準備物

マット お手玉 ケンステップ 大縄 跳び箱 タイマー chromebook 振り返りプリント

本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	【観点】評価規準 (方法)
		○指導上の留意事項 ▲特に配慮が必要な児童生徒への手立て	
10分	○準備運動をする。 ・基本の柔軟運動 ・回転ボールキャッチ ・自由に体を動かす ○本時のめあてを知り、学習の見通しを持つ。	▲ボールを投げ上げ、その間にお題に沿った動きをするゲームを取り入れることで、本時の主活動にスムーズに取り組むことができるようにする。	
はってん的な回転わざを使い、いろいろなコースにチャレンジすることができる。			
7分	○発展的な回転技に取り組み、コツを見つける。 ・開脚前転 ・飛び込み前転 ・開脚後転 ・伸膝後転	○技のイラストやポイントをスライドに示すことで確認しながら技に挑戦できるようにする。	【知・技】 発展的な技を行うためのコツを考え動きを工夫することができる。 (行動観察 振り返り)
3分	○各取り組みについて共有する。		
7分	○いろいろなコースで技に挑戦する。	▲挑戦してみたいくなるよう	

<p>分</p> <p>3分</p>	<p>赤・・・ロープの上を通ってみよう！コース</p> <p>青・・・お手玉をよけて通ってみよう！コース</p> <p>緑・・・上手に回ってはダメ！コース</p> <p>黄・・・しっかり練習！コース</p> <p>橙・・・自分たちで作ってみよう！コース</p> <p>○取り組みについて共有する。</p> <p>2回（最後は共有の時間なし）</p>	<p>なコースや、今できる技で挑戦できるようなコースを設定することで、意欲的に活動することができるようにする。</p> <p>○共有の時間に取り組みの仕方についての価値づけを行うことで、振り返り時にその視点での振り返りが記述できるようにする。</p>	
<p>8分</p>	<p>○片付け 振り返り</p>	<p>○振り返りには、今日自分が挑戦したこと、工夫したことを記述するように声掛けをする。</p>	